

静岡第1宗務所
志太仏教同志会

元会長 竹田昭三

我が曹青を
語る (17)

全国に魁けて……戦前から活動

戦後の布教
終戦と同時に復員されたもの、何年かの空白と戦後の荒廃によって、なかなか再起出来ず、たが、一部の人々が新しい人達と共に再興し戦前に少した活動を再度繰り上げ、加えて託児所の手伝いを、する御婦人や女子中学生等に指導をして農繁期の託児所を乗り越えて行きま

戦前の活動
静岡県第一宗務所管内の西部にある志太仏教同志会は、戦前戦後を通して活動して来たグループです。此の地は地区に大企業もなく、農業が主産業で昔はお茶、ミカン等で生活して来たいわゆる志太平野といった所です。その中に百五十ヶ寺位が点在してあり、お互いに随喜し合い助け合って寺院の運営と布教活動をして来たわけです。戦前は主に自己研鑽が主で、法堂法要、声明等に重点を置き、余暇をみては子供会を開き、童話、紙芝居、絵断等を演じて子供達の情操教育の一端を負い、農繁期には託児所等を開き農家の皆さんの手助けをして来ました。

途中小女子の参加、又在家の子供の参加が増え、関係で別に研修することを開催しました。子供禅の集



徒弟研修会

漢詩の勉強会を開催した。少しづつ変り、生活が安定して来た昭和三十二年頃までは若い青年僧の力を發揮して地域社会に密着した布教を繰返して来ました。そうした中で会員数も減り始め、年と共に年齢層も高くなり、若々しい青年僧がなくなってきた。育って行かねばと後継者を話し合っている内に、徒弟研修会を開いて小学生、中学生、高校生を集めて、着物の着方、足袋の着方、大着の着方、御経の読み方等を会員と一緒に学ぶ事になり、少なからぬ会員が力を合せて取り組む事に決まりました。

これが後住職として若い宗侶が今何をするか、折にふれ相談して来ましたが、先ず自分の研究が第一と考えられ、当時の会長の発案で講師を拝請して、僧侶として、又住職として実際に役立つ第一宗務所管内を始めて。他の宗務所管内からも聴講が有り、何回か重ねて現職研



受戒会

いは弁財も盛会に行つておられます。そんな中で各寺院の花流詠讃歌を取り入れ、講数も年々増えており、行を始めて終戦後あまり行われなかった授戒会を、梅花流を取り入れて行つた。昭和四十三年春に初めて詠讃歌受戒会、その身を以て、会員の御協力を得て、戒弟六百五十人の指導で戒弟六百五十人の授戒会が無事修行された。



子供禅の集い

現在会員数も六十余人となり、自己研修を軸に、寺院の運営と社会教化に参加して行くかを常に模索しながら、会長を中心とした地域にはなくしてはならない青年僧の集団となつて、今後も活躍す。〔抜粋〕